



-多久で見つけた- No.4

# まぢのひと



**社名** MokuMoku  
**住所** 多久市東多久町古賀3区  
**氏名** 大石 浩平 (39歳)  
**営業時間** 10:00~17:30  
**定休日** 不定休  
**電話番号** 090-9727-0014  
**事業内容** ウェブデザイン、システム、イラスト、  
 動画などパソコンで何でも作ります。

**Q.起業したキッカケは**

A.IT企業で働いている時、子どもが生まれ、子どもと関わる時間を大切にしたいとの思いから。

**Q.多久の好きな所**

A.のんびりしていて余裕がある所、文教(歴史・芸術)に力を入れられているところ。

**Q.多久市に望むこと**

A.地方ならではの価値観を大切に。皆で町づくりに関わっている実感がわくような仕組み・制度を作ってほしい。

**Q.更なる夢**

A.地域の人が集える様な居場所を作りたい。



**一言メッセージ**

地元のための仕事も  
もっと頑張りたい



## 論語大学⑦

### 「徳は孤ならず」

論語の中では比較的よく知られた言葉である。「徳を積めば、孤立することなく、必ず、よく理解してくれる友人、知己がでてくるものだ」という意味で、信念に満ちた言葉である。しかし、孔子は自分の直接の弟子を除いては、孔子の説く徳は在世中に理解されることは少なく、特に政治の実権を握る諸国の王には容認されず、三十数年にわたる悲劇的な放浪の旅を続けなければならなかった。いかに、有徳の孔子ではあっても、いや、それゆえに、弱肉強食の戦乱に明け暮れる春秋時代では敬遠され、孤立した。

徳、すなわち「人類の意志に最も敵う心がけをもって行動する人格」は、長い人類の歴史を通じて必ず誰かが求めて、ついてくる。理想は実現されないからと言って、無用ではない。諸行は無常である。無常なるがゆえに、無常でない永遠の理想として徳の実現が人間の使命であることを囁きかける。

事実、釈迦、孔子、キリスト……こうした聖人と呼ばれる人々の行動は、二千年の歴史の中ですます、光芒を放っていく。まさに「徳不孤、必有隣」である。



### 論語大学について

かつて、私たちの郷土・多久は先人たちの努力により佐賀藩内はもろろ諸藩に先駆けて邑校・東原庵舎、そして聖廟を建立。この地に「文教の里」を作り上げた。今一度、私たちは先人たちの血のにじむような努力を思い起こし、その実行に努めるべきではないでしょうか。その願いを込め、元学校長 故・不二見達朗氏が30数年前に多久市報に連載寄稿した論語解説を復刻するものです。

UD FONT by MONSIEUR

見やすくて読みがたがえにくい  
 エンバーチャルデザインフォント  
 を採用しています。

環境に優しい  
 VEGETABLE 植物由来インク  
 OIL INK 使用しています。

